

誕生秘話

2022.3.9

影森中学校では、小嶋校長の考えのもと、合唱の機会が増えていった。最初こそ生徒は抵抗を示していたが、坂本先生を中心に粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって学校は明るくなっていった。

ここまでで、すでに奇跡が起きている。この間の坂本先生をはじめ先生方の努力は、想像を絶するものだったはずである。そうでなければ、学校が変わることなどない。

「歌声の響く学校」を目指して3年目の1991年2月下旬、坂本先生は歌声の響く学校の集大成として、卒業する生徒たちのために、何か記念になる、世界にひとつしかないものを残したいと考えた。

自分の思いを校長に伝えた。そして、作詞を小嶋校長に依頼する。そのとき、小嶋校長は「私にはそんなセンスはないから」と断っている。ところが、翌日、坂本先生の机には書き上げられた詞が置いてあったのである。

その詞を見た坂本先生は、なんて素敵な言葉が散りばめられているんだと感激する。その後、授業の空き時間に早速ひとり音楽室にこもり楽曲制作に取り組んだ。すると、旋律が湧き出るように思い浮かび、15分程度でその名曲ができ上がった。そうである。今では卒業式の定番ソングとなっているあの旋律は、わずか15分ほどでできたのである。

でき上がった曲は、最初はたった一度きり「3年生を送る会」で教職員から卒業生に向けて歌うためのサプライズのはずであった。ところが、その翌年からは、生徒たちが歌うようになる。小嶋校長は、この年に定年を迎えて退職した。

それ以後、しばらくは影森中学校だけで歌われていた合唱曲だったが、次第にまわりの小中学校でも歌われるようになった。そして、1998年頃までに全国の学校で歌われるようになった。今では、『仰げば尊し』『巣立ちの歌』『贈る言葉』などに代わり全国で最も広く歌われる卒業式の歌となっている。

私がある中学校に勤務していたときに、以上のエピソードが『旅立ちの日に』の誕生秘話として、テレビで放映された。私は急いでそれを録画した。今でも、それを大事に持っている。私が『旅立ちの日に』と出会ったのは、その学校に勤務しているときだったと思う。初めて聞き、なぜかわからないが涙が溢れてきた。ほどなくして「誕生秘話」を知り、なぜ涙が出てきてしまうのかがわかった。学校の先生がつくったのである。それも荒れている中学校の先生である。学校を何とか立て直したいという思いが込められた歌なのである。

(次号に続く)